

アセットマネジメント導入に向けた水道事業体への指導、助言の現状・課題

〈現状〉

- ・水道施設における設備の法定耐用年数を超過している割合が高く、有収率90%を下回る状況。
- ・維持管理の高度化を図るために、施設の実態を把握し、水道施設台帳などの管理台帳を適切に整備する必要がある。

〈課題〉

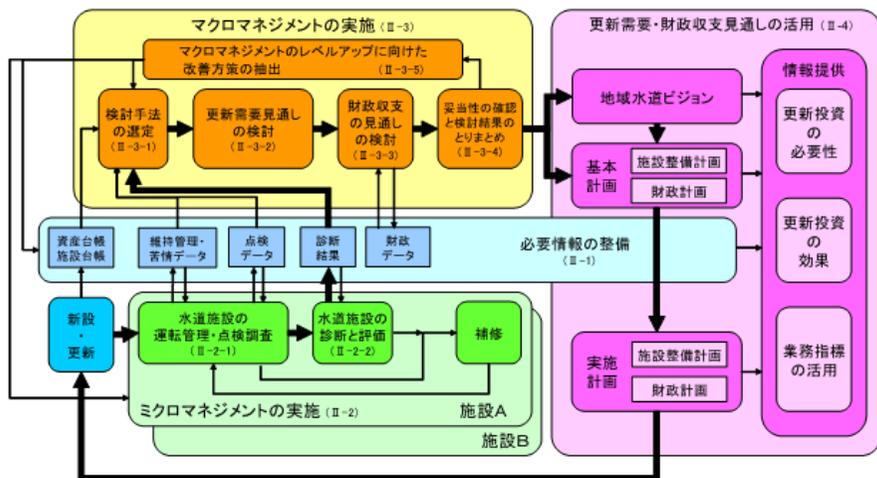
- ・計画的な設備や管路の更新を行い、更新率を上げることにより、水道施設の健全化を図り、維持管理を適切に行う必要がある。

〈アセットマネジメント〉

・水道における「アセットマネジメント(資産管理)」とは、持続可能な水道事業を実現するために、水道施設の特性を踏まえつつ、中長期的に水道施設のライフサイクル全体にわたって効率的かつ効果的に水道施設を管理運営する体系化された実践活動。

- ・令和3年3月末時点 アセットマネジメントの未導入事業体は、9事業体。
(上水道(3C):5事業体 簡易水道(1A):4事業体)

・アセットマネジメント実践サイクル



県代行モデル事業（簡易支援ツールを活用したアセットマネジメント）の概要

〈目的〉

- ・「高知県水道ビジョン」において、重要施策「簡易支援ツール等を活用したアセットマネジメントの導入」の数値目標として、令和6年度(採用年度:令和4年度)までに実施率80%
- ・県の役割:技術を保有する水道事業体と連携し、アセットマネジメント3C導入における助言やアセットマネジメント簡易支援ツールや各水道事業体の取り組み状況などの情報提供を行う。
- ・そこで、県が水道事業体に対して、**適切な助言と指導を行えるノウハウや知見を得る**ために、県代行モデル事業として、簡易支援ツールを活用してのアセットマネジメントの導入を行う。
- ・なお、本事業は、**圏域リーダー育成**の取り組みも兼ねています。

〈参考図書〉

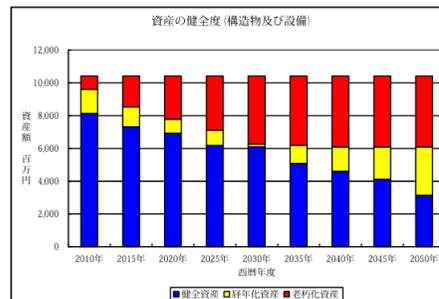
- ・水道事業におけるアセットマネジメント(資産管理)に関する手引き
- ・簡易支援ツールを使用したアセットマネジメントの実施マニュアル

表1-3-1 更新需要及び財政収支見通しの検討手法のタイプと検討事例の関係

更新需要見通しの検討手法 \ 財政収支見通しの検討手法	タイプA (簡易型)	タイプB (簡易型)	タイプC (標準型)	タイプD (詳細型)
タイプ1 (簡易型)	タイプ1 A (検討事例3)	タイプ1 B	タイプ1 C	
タイプ2 (簡易型)	タイプ2 A	タイプ2 B (検討事例2)	タイプ2 C	
タイプ3 (標準型)	タイプ3 A	タイプ3 B	タイプ3 C (検討事例1)	
タイプ4 (詳細型)				タイプ4 D

更新事業を実施しなかった場合

更新基準に基づく更新



更新事業を実施しなかった場合、年数経過とともに、経年化資産(黄)→老朽化資産(赤)に変化し、将来は健全資産(青)の割合が低く、老朽化資産(赤)や経年化資産(黄)が多く占める(左図)。一方、適切な更新時期を定めて更新事業を実施すると、資産の状態は、現状の水準を維持できる。